

デジタル

ボイス

メールカウンセリングの現場から

安藤 房子

な要求をされても素直に従いそうなくとくらしい。正直、こんなにいい人が解雇されるなんて、この国の企業の在り方について考えさせられてしまう。

必要なときだけ雇用し、いらなくなったらポイ。そんな、人を人とも思っていない企業がが増えてきた。かつてはもっと、企業は人を大切にしていた気がする。

「働く側」が、働き方を選べたような気がする。ほんの数年前までは、正

企業も働く側も想像力が必要に



ないなんて。世知辛いとしか言いようがない。

正社員として働きたいのに雇ってもらえない人たちがかなりの数で存在しているという事実。そしてそのことから、生きる希望を失い、自殺をしたり、逆に凶暴になって周囲を脅かしたり、そんな事件につながっている

という事実。

つい先日のこと。テレビで派遣社員や低所得者についての報道をしていて、それを一緒に見ていた夫がこう言った。「企業が人を雇うときには、もっと覚悟しなくちゃダメだね」私も、そうだと思う。終身雇用制大賛成というわけではないけれど、企業が人間を単なる労働力として機械のように扱うのではなく、働く人にもたいせつな人生があるということを考えてくれたら……。

だけど、しばらくそういう世の中はやってこないだろう。そうだとすると、雇われる側が、今まで以上に、企業や世間が求める能力とはなにかを常に考える必要があるだろう。時代によって、社会情勢によって、景気によって、求められる人材は変化していく。仕事に必要なツールや、情報収集の方法や、ヒットする企画も変化していく。

そんな中で「私には私のやり方がある」と言う前に、周囲が求めるスタンダードのラインをクリアしていくしかない。その上で、自分の得意分野をふたつ以上身につける。そうすれば、企業からひどい扱いはされないだろう。

雇う側も雇われる側も、今いちばん必要なのは想像力だと思う。想像力を持つては、他人を思いやることができる。楽しい人間関係を築けるし、いい業績を残すことができる。企業が想像力を持つてくれないなら、働く側がそうなるしかない。

(恋愛カウンセラー・作家、大江町出身)

毎月第一月曜日に掲載します
※携帯サイト「ピトコト」で筆者の最新連載「しあわせは、おかわり自由」がスタート。詳細は筆者のホームページ

(<http://www.heart-juncti>

[on.com/happy-oka/index.html](http://www.happy-oka/index.html))。

(<http://www.happy-oka/index.html>)。

世知辛い世の中だなあと、つくづく思う。若い労働力すら簡単にリストラされ、リストラされた側は次の就職先がなかなか見つからず、やっと職についたと思えば朝から晩までの重労働。必死で働いているのに、残業代がきちんとつかず、たいした給料ももらえず、夢も希望も失っている人が多い。仕事に疲れ、生きる希望を失った人たちからの相談メールは決して少なくなく、メールの内容はかなり深刻で、深く沈んでいる様子がかがえる。

知人の中にも、理不尽な解雇通知を受けた人がいる。その人は、とても穏やかでやさしく、誠実。この人が解雇されるようなことをしたのだろうか、と考えてみても想像がつかない。思いあたるとすれば、穏やかだから無理

社員が派遣社員かアルバイトかと、自分の生活パターンに合わせて働き方を選んでいた。だけどふと気づくと、ごく普通の人たちが「ほんとは正社員になりたいのですが、働き口がありません」という状況になっている。

もちろん、企業には企業の原因があるだろう。厳しい台所事情が続き、

やむなき事情で解雇せざるを得ないのかも。働く側にも、なんらかの問題があったのかもしれない。一人倍能力があり、自己アピールがうまく、人の前に出て行くのが得意な人になら、今もなお企業はやさしくしてくれるのかもしれない。

でも、ごく普通の人や、普通に働け